

生サポ魂

「必ず楽しませます」 「必ず私たちも楽しみます」

生サポにとって法人格とは

——生サポ立ち上げのきっかけは？
YMCAの学生リーダーから、職員になり、働くうちに、自分の可能性に挑戦したいと思い、退職。フリーとして活動するようになり、2003年3月NPO法人を立ち上げました。

——法人になって良かったこと、そうでなかったことは？
法人化は、「信用してもらえろ」ということが大きいと思います。

助成金・補助金を申請できるというのも、法人としてのメリットだと感じています。個人でやっていたころは、会計も十分に管理できていませんでしたが、法人化を機に、きちんとできるようにになりました。法人化によって事務局作業が増え、面倒になったと感じたことはありません。

「まなび」はやらされるより、やる方がずっと楽しい。

——自主事業としてされているチャレンジア일랜드って？
チャレンジア일랜드は、小学校4年から中学生を対象に、電気も水道も

無い無人島で行う自給自足のキャンプです。

島にいったら、まず時計を預かり、時間に縛られない生活をします。持ち込む食材は、米・野菜・調味料のみ。それ以外の食料は、海から調達するのです。そして、一日の過ごし方は自由！働くもよし、遊ぶもよし。時間の使い方は、子ども達で考え、ほかに難しいルールはありません。

自由を得た子どもたちは、最初は大喜びで遊ばず。そのうち、お腹が減ってきて、食事の用意をしなければならぬことに気が付き、漁に挑戦します。しかし最初から、そうそううまく魚が獲れるはずはありません。その夜は、ごはんも味噌汁だけでおかずなしの食事です。やっと食事が終わったと思えば、すぐに次の食事のために、漁をする必要があることに気がきます。

難しいルールもなく「自由」を得たはずなのに、「全然、あそべない〜」とため息。「自由な時間」に戸惑ううちに、やがて子どもたちは、「ひとりひとりが自分の役割を果たし、人の役にたつ」という大切なことを見つけているのです。大人が何も言わなくても……。
最終日、無人島に来てからずっと生活を共にしてきたニワトリを食べます。

「最近よく思うんです。“やらされてる”って面白くないなあって。“まなび”もそうじゃないですか？やらされるよりやる方がずっと楽しい。」
そんな思いから手作りの“まなび”を作り上げた、NPO法人生涯学習サポート兵庫「にぎやか師」山崎清治さんに「生サポのまなび」をお話いただきました。

プロフィール

山崎 清治 (やまさき せいじ)

1972年大阪府生まれ。
YMCA退職後、2003年「NPO法人生涯学習サポート兵庫」を設立し、理事長に。
現在兵庫県新ひょうご子ども未来プラン推進策定協議会委員、武庫川女子大学非常勤講師等、歴任。



シリーズ
listen to....

聞く Vol.14

NPO法人 生涯学習サポート兵庫 理事長 山崎 清治さん

食べるか食べないかは、子どもが話し合いで決めるのです。何も無い無人島で自分の置かれている状況を理解し、「自分が生きるために必要な『罪』として気持ちの整理をしはじめます。泣きながら食べる子どももいます。でも、その後、二度とニワトリが食べられなくなるような子どもは今までいませんでした。参加したひとりの子どもがこう言いました。「家では、ご飯を作ってくれたお母さんに『いただきます』って言うってんだけど、今日はニワトリに『いただきます』を言うよ。」と。大人がいくら「命の大切さ」を押し付けて教えても、心には届かないのです。「いただきます。』の意味は、ニワトリの大切な命をいただいているのだという事を誰に言われなくても子どもたちは、自然に気がつくのです。

「楽しいまなび」は、自分からやりたいと思えるものかな。

——チャレンジア일랜드ではどんなことを？
チャレンジア일랜드は兵庫県を徒歩で縦断(150km)する事業で、小学4年生から中学生を対象に行っています。リヤカー7台に、参加した全員の荷物を乗せて大人は触らず、子どもが引いて運びます。最初は好きな者同士に

協力し合わなければいけないことを自然に学び取っていきます。好きなことをするだけなら「友達」としてよくても、目標を達成するためには、「仲間」が必要であることを。
また、子どもだけで、歩くコースを決め、期間中の食費1万円を自分で管理することにしています。大人がするのは、不審者と車から子どもを守ることだけ。

時には、休憩を2時間もとってしまう、目的地への到着が夜中になってしまうことも。お菓子しか食べず、体力がなくなってきた子が、体力の消耗を抑える食べ物について質問してきた時に初めて、その対策を教えます。すべて子どもの自主性に任せ、体験から学ぶことが大切だと思っています。



分かれていきます。運動の好きな子チーム、勉強が好きな子チーム、女の子チームなど。ところが、それでは困ることが起こってくる。運動の好きな子チームは足腰が強くて、早く進むことができず、道を間違えて引き返したり……。勉強が好きな子たちは、地図を見ながら慎重に進む。女の子ばかりだと、なかなか進まない……。いろいろな問題が出てくると、自分たちで考え、役割を見つけていくようになります。

——大人が先に手を差し伸べない。まず、運動の好きな子が、各リヤカーに数名ずつ分かります。次に、地図を見てコースを指示できる子が先頭に。様々な役割分担を指示する子も出てきます。この過程で、好き嫌い関係なく、

「キャンプ屋」が社会に必要な職業として成り立っていくこと

——生サポの今後の目標は？

生サポ単独で事業をやっていくと困難なことも多々あります。そんな時にはNPO同士の横の繋がりがありがたいです。この企画ならこのヒトにお願いできる！という情報を得て、人材を確保することで事業をより良いものにする事ができます。自分の団体の中だけで、独りよがりにならないためにもネットワークを大切にしたいと思っています。現段階での目標は、多くの団体・個人とのネットワークを広げ構築することです。

また、「NPO法人」は手段であると思っています。NPOに固執するつもりはなく、青少年活動や体験活動事業が盛り上がり、キャンプ指導者が職業として成り立つようになればと思います。「魚屋・肉屋・洋服屋」と同じ様に、「キャンプ屋」が社会に必要な業界となるという事も目標の一つです。



NPO法人生涯学習サポート兵庫って？

生涯学習に携わる講師やコーディネーターの集団。体験活動やワークショップの専門家たちが、生涯学習や子育て、地域福祉活動をあらゆる形でサポートしています。

お問い合わせ・連絡先
姫路市飾磨区英賀西町2-15-2
TEL.079-230-0661
URL.http://shosapo.iwish.jp

今回お話をいただいた他にも
わくわくするような事業が
いっぱい！
詳しくは、
ホームページへ。

